



OMO2024 プランナーレポート

OMO2024 ご参加ありがとうございました。4年ぶり4回目の越生での開催でした。楽しんでいただけたでしょうか。

開催を重ねても新鮮味のあるコースを提供するべく、今回は過去利用していない越生町南部に位置する鼻曲山、越辺川源流、黒山三滝を中心に下見を開始しました。このエリアは越生の山林でも急峻で、オリエンテーリングにはタフかつリスクも高めと感じていて、実際山に入ると谷筋が急峻でした。それでも競技は不可能ではないレベルで CP 自体は緩斜面に設定し、ルート選択の一つとして急峻エリアを抜けていくコースであればスキルに応じ楽しめるのではと考え、越辺川源流ルートは冒険心をくすぐる雰囲気があったので、ここを一つの軸にしようとコースと範囲を決めていきました。

ただこのエリアは会場から距離があり、急峻な地形に不慣れな方も少なくないだろうと考慮し、南側に大きく伸ばすのはエリートのみとしました。また源流域上までは会場から距離があるため、エリートでもあまり東西にコースを広げる余地はなく、基本的に越辺川側の斜面を時計回りに進むコースとなりました。
(必然的に右側が斜面の低い側となるトラバースが多いため、右足の負担が大きかったという声も)

コースの難易度についても考えました。昨年の OMM エリートは完走率が高くなり、OMO も初期の頃より完走率は上がってきています。そんな中でチャレンジしがいのあるコースにしたいという思いもあり、従来より少し長くテクニカルな CP をいくつか設定する方向で検討しました。なお実際は少しのつもりでしたが、各山塊をなるべくトラバース気味にして比高は抑えても優勝設定で過去開催から 20 分ほど長いコースとなってしまいました。一山削ってロード区間を作るべきかとも考えましたが、最終的にいかにも調整しましたよりもコースの完成度を維持したほうがいだろうと判断しました。

なお今回は CP4 から CP11 までが新規エリアで、ここまでは多くの選手が楽しんでほしいと考えていました。結果的に競技時間内完走は 7 組となってしまいましたが、CP11 までは 27/40 組の約 7 割が到達でした。多くの選手が通れば話題も共有できますし、その点は良かったと感じています。

一方のレギュラーは過去開催のエリアと重なる部分も多いですが、新規エリアとして桂木観音の南西側までは含むようなコースレイアウトにしました。またルート選択が分かれるような設定を心がけ、例えば 1-2 は市街地エリアの作図の手間がかかりますが、高取山塊の東側も想定ルートに含むようにしました。そのため地図範囲はエリートとは異なった範囲となっています。またエリートの CP 位置がかなり難しい設定となっていたため、共通 CP は 1 か所のみでレギュラーの難易度として適切な位置を考えつつ CP を設定しました。



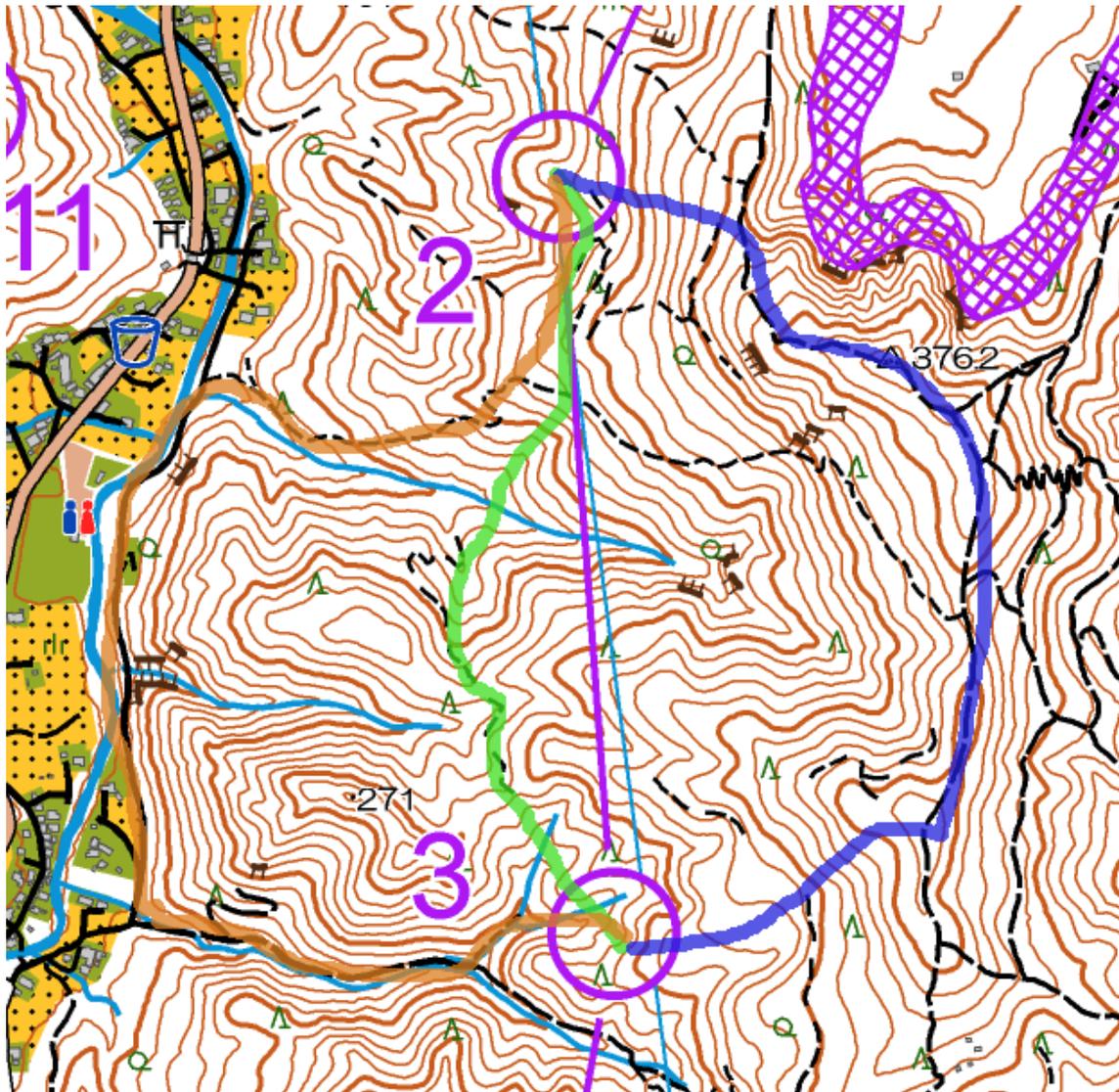
完走率は 58/113 組で 5 割強という結果となりましたが、ラストの CP10 がプランナー想定以上の難しいと感じた選手が多く、ここで完走を逃す、あるいはエリートの CP14 でミスパンチをしてしまうケースもあつたようでした(エリート CP14 のほうがたどり着くのは難しいのですが)。CP10 が難しく感じたのは、CP のある尾根が平坦な地形から発生して、CP9 から下ってくる方向からは連続性のない地形だったためだと推察されます。このような場合、逆に CP10 より低い側は尾根も谷も明確になっていることが手掛かりになると思ふます。また基本なことですが、CP の識別番号はきちんと確認しましょう。

上位選手のルートの詳細検討はオンラインの振り返りの際に改めてしたいと思ふますが、ピックアップしてコース設定の狙いなどを紹介します。

エリート

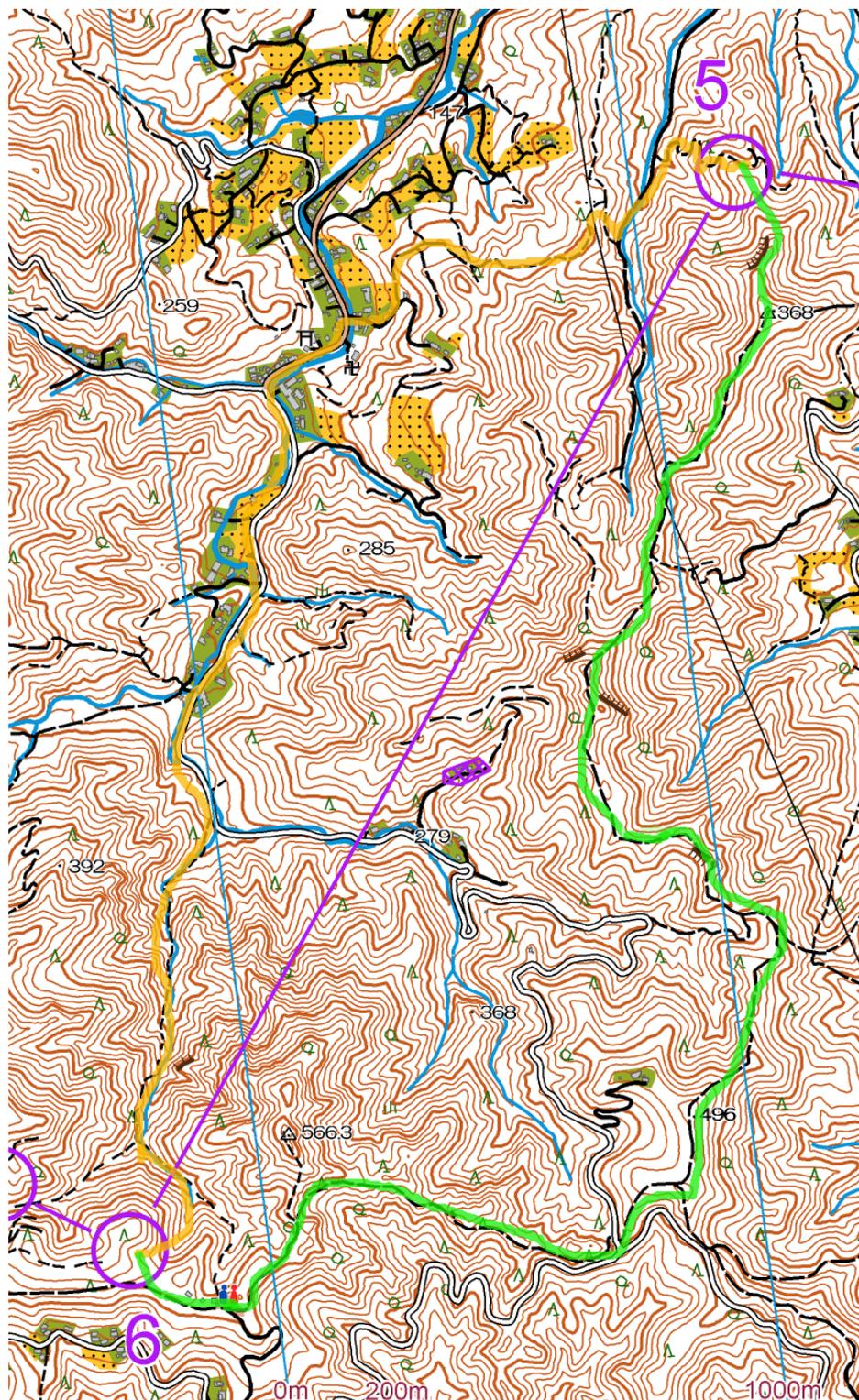
2-3

トラバースのテクニックを問うレグです。一部に不明瞭な小径があるのみで地形で現在位置を把握しながら進む必要があります。CPも1/25000等高線間隔10mでの読み取り限界の難しい位置に設定しました。なお若干時間はかかりますが、迂回ルートも選択肢になり、迂回の場合、西側谷回りの方が難易度は低いと思います。



5-6 ロングレグその1

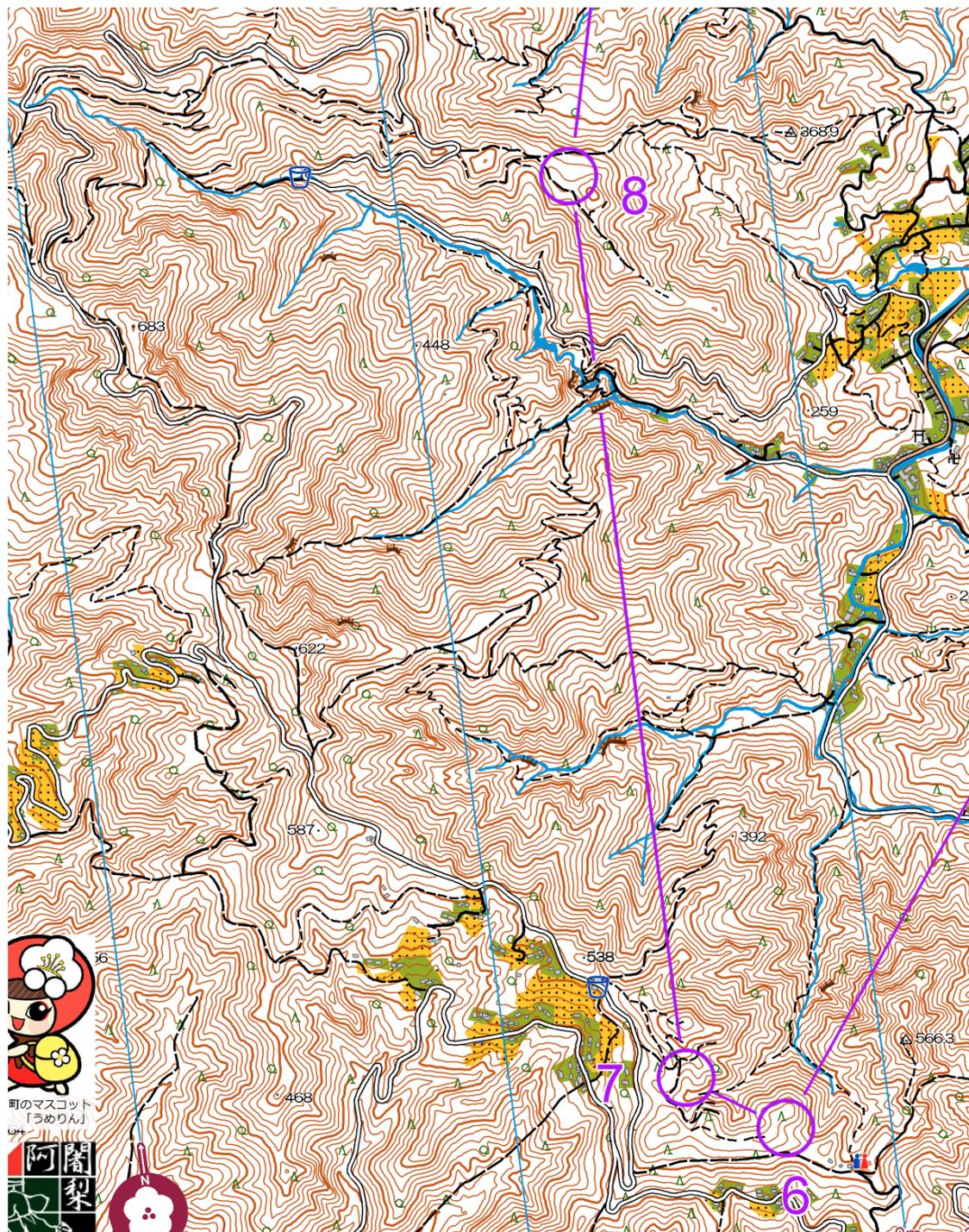
先に書いた越辺川源流がルートを選択肢になるレグで、尾根に上がって鼻曲山、一本杉峠を通るトレイルのルートと大きく2 択になるように設定しました。ルートも半々（やや谷ルートが多いか）に分かれたようでした。



7-8

ロングレグその2

CP8 の位置自体は容易ですが、これぞマウンテン O というルートの選択肢が非常に多いレグで、プランナー想定だけでも7通りのルート選択があります。ルートの書いていない地図でいくつルートが見えるか？どのルートを選ぶか？その根拠は？など考え、ぜひプランニングしてみてください。



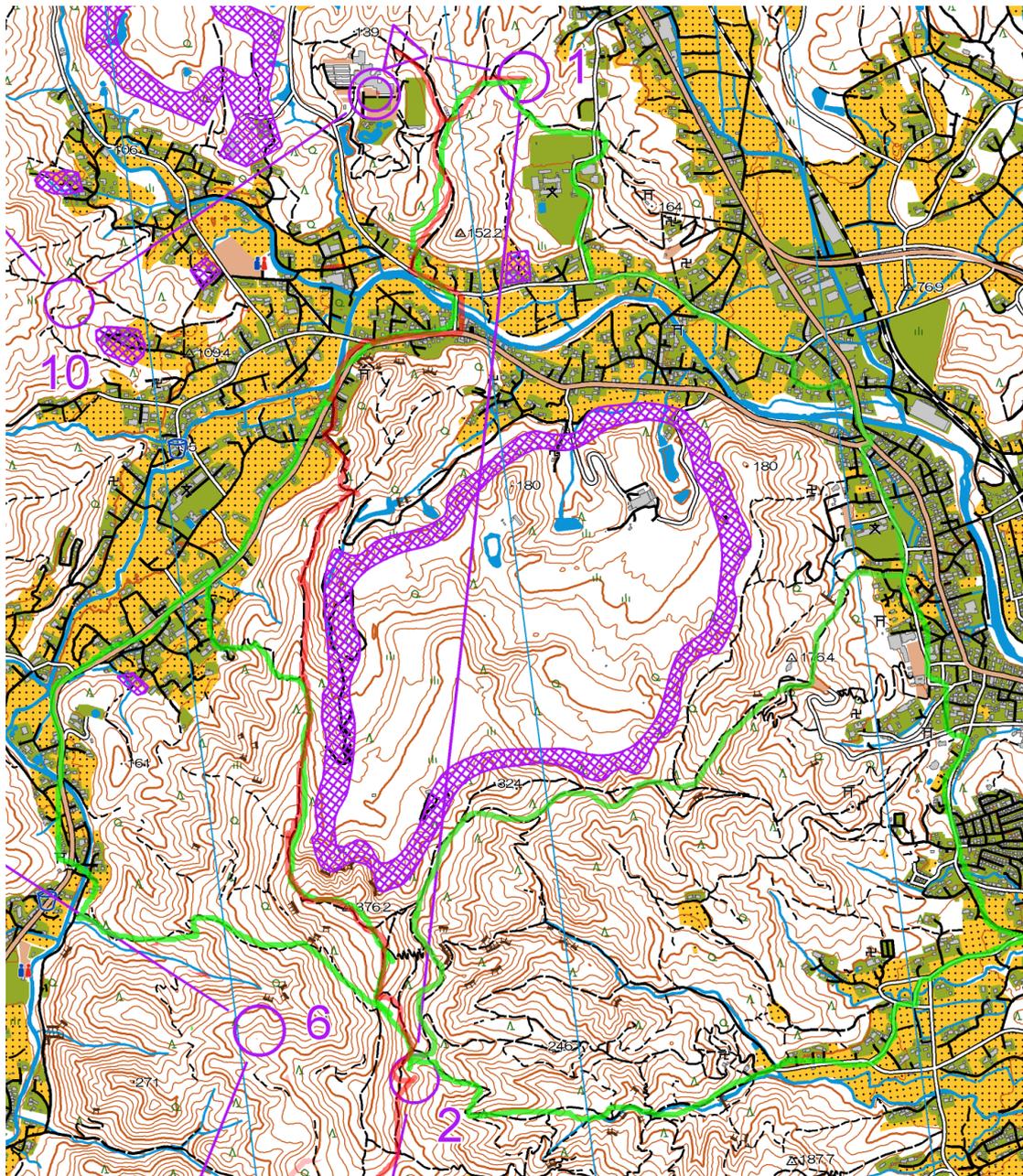
レギュラー

1-2

ロングレッグその1

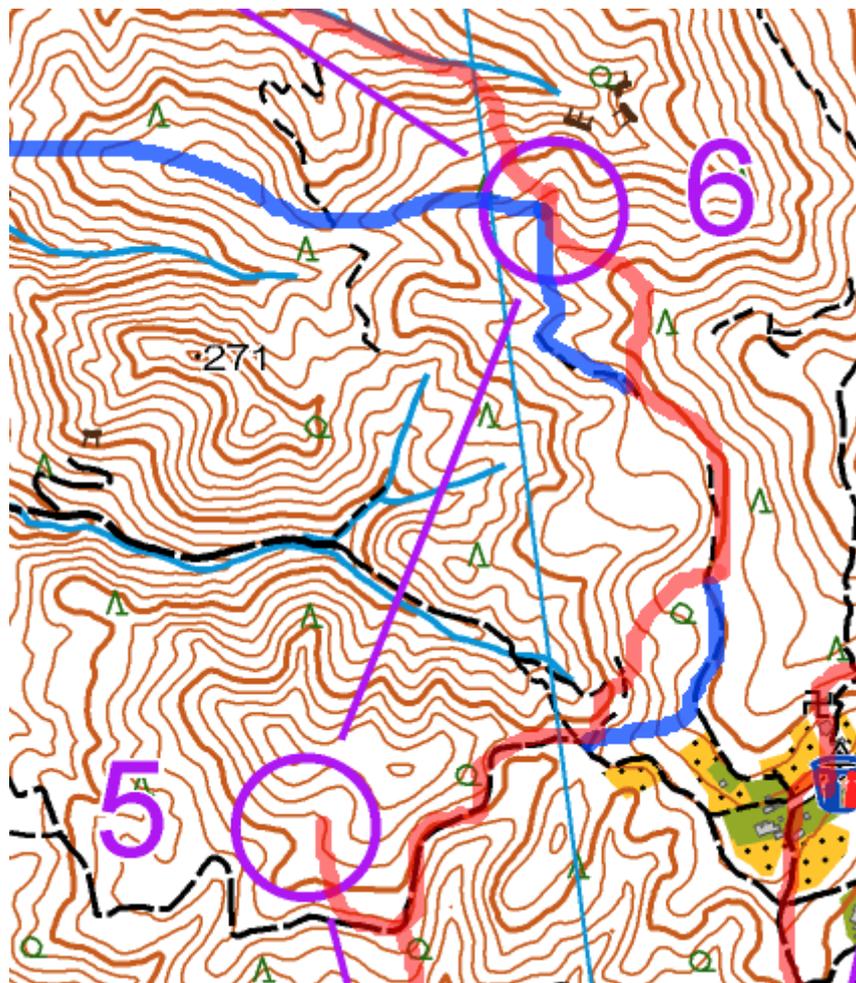
高取山塊へ西側から上るか東側から上るか大きく分かれ、それぞれにいくつかルート選択があります。総じて西側ルートのほうが距離は短いですが、大高取山を越える場合比高は若干多くなります。一方の東側ルートは膨らむ分距離が長くなります。CP1 から出戻りして西側ルートが最も早かったようです。

(赤がトップルート)



5-6

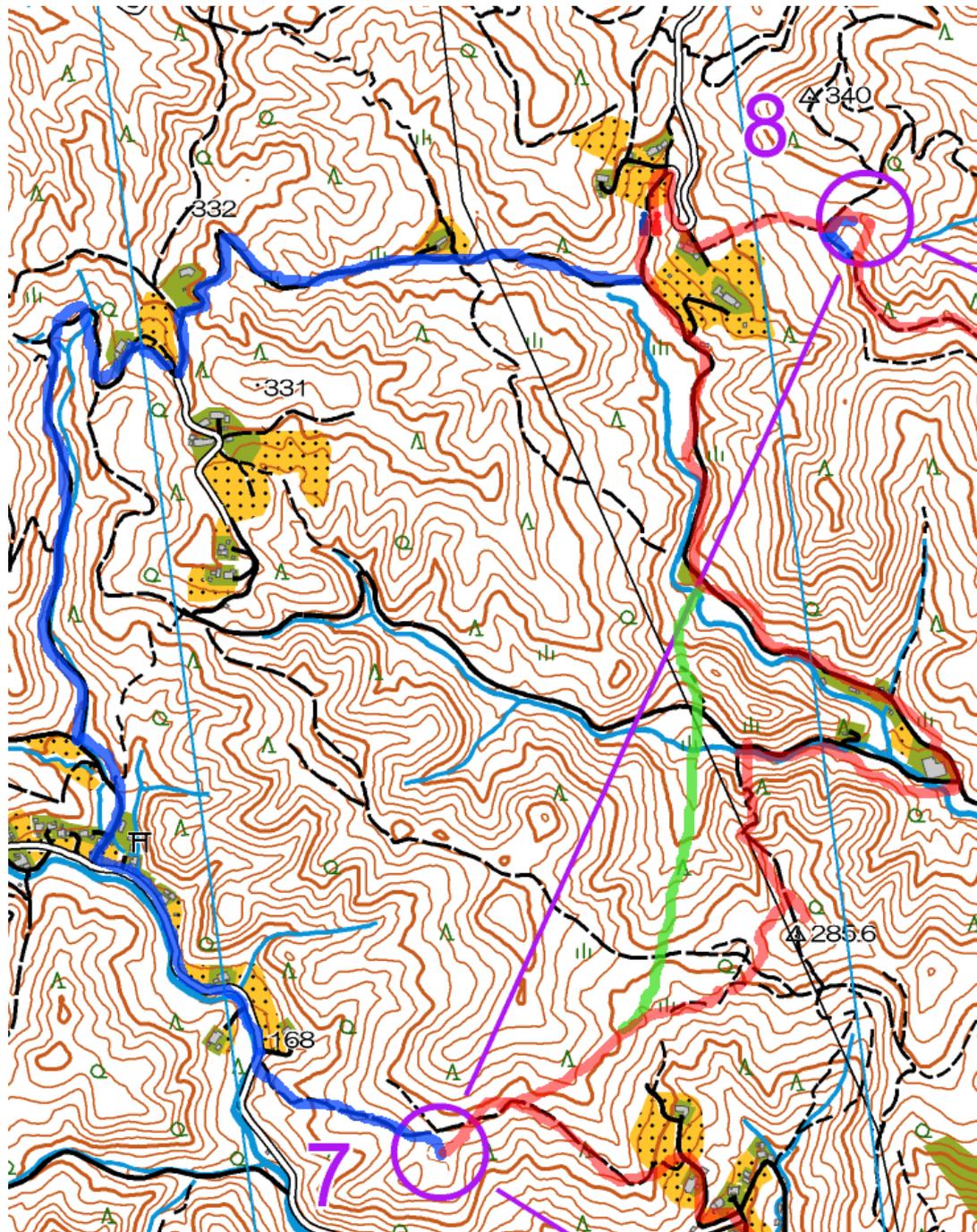
エリートと異なり CP は大きな地形に設定していますが、CP 付近に道はなく地形を読み取ってアタックする
必要があり、今回のレギュラー中では最も難易度の高い設定としました。上位 2 選手はラインこそ異
なりませんが、いずれも斜面中腹の小径上で一旦現在地を把握した上で地形的な特徴点から CP ヘアタ
ックしていることが読み取れます。



7-8

ロングレグその2

西側へ大きく迂回するランニングルートと北東へ斜面をトラバースするテクニカルなルートの大きく2つに分かれる設定です。テクニカルルートの場合、谷へ降りてから鞍部を越える最短ルートと道で迂回するルートの2種類があるかと思います。スムーズにいけばテクニカルなルートのほうが早い設定としています。





地図作成について

ロゴや色合いなどは、開催を重ねてなじみ深くなってきた今まで通りでした。植生や神社・お寺などの地図記号をラスター（画像）データとしていたところ、ベクター（図形）データに変えています。例えば標高の表記などが読み取りやすくなったかと思います。またトイレ記号も一般的な青と赤の記号にマークに変え、マーシャル待機所も背後の地図が隠れない記号に変更しました。

ベースの地形図で正しくないことが多いのが道で、道をどこまで調査・表現するかが苦慮するところです。想定ルート上を下見しながら道は極力正しく表記する方針で修正を加えていますが、不明瞭な道をどこまで表記するかが一番悩むところです。道をたくさん書き込むことで易しくなることもあれば読みにくくなることもあり、手間自体もかかる部分なのでなかなか難しいですね。

仕様を確立させているO-MAPと異なる、1/25000のナビゲーション地図はまだまだ発展途上かなと感じます。地形図そのまま一つの解ですが、今回のCP位置＝あるはずの地形が地形図では表現されていないことも多く、コースは成立しないという面もあります。最適な情報量の読みやすい地図を今後も目指していきたいと思います。気づいた点は取り入れていきたいので、ご意見をぜひお聞かせください。

最後に

奥武蔵でもトレイルレースではチャレンジな方向性として長距離化、100マイル化が進んでいます。より長く、は自身の鍛錬や挑戦としての一つの方向性であり、奥武蔵はそれを実現できる懐が深いエリアだと感じます。一方で奥武蔵の地形は時にはタフに時には難解に、そして時には優しく我々を楽しませてくれる、そういったポテンシャルも秘めていると今回コースを作りながら改めて感じました。

OMOはその魅力にすでに虜になっている方々に支えられています。まだ気づいていない方々も多くいらっしゃると思います。今後も微力ながら自身が楽しみ方を体現しつつ、伝えていきたいと考えています。

(TEAM 阿闍梨 柳下)